2007年　1日発行　ＳＳＫＷ　通巻第９０４号　付録

福岡の実家の玄関前で

明 石 通 信

発行責任者　明 石 洋 子

2007年 1 月 発 行

あけましておめでとうございます。

「松の内」も とうに過ぎて、遅い年賀のご挨拶になりましたが、本年もご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年７月末で、20 年５ヵ月お世話になった（株）スズケンの管理薬剤師を退職いたしました。「朝の通勤がない人生、寂しくなるかなぁ～」と思っていましたら、前にも増して忙しく、前回「あおぞら」のみで「明石通信」を書けずに申し訳ありませんでした。また、お世話になりながらも退職のご挨拶ができなかった方にはこの紙面を借りてお礼申し上げます。

皆様のご指導ご支援を受けて有意義な仕事をさせていただき、多くのことを学ぶことができ心より感謝いたしております。これからは薬剤師としての職能も生かしながら福祉活動に専念したいと思っておりますので今後もご支援くださいませ。

規則正しい会社生活から、現在の活動は日替わりで多種多様。今まで口実に使えた「本業があるから」も使えなくなり、親の会活動などの役職を能力以上に引き受けてしまったのですが、新しい出会いもあって楽しくやっております。

熊本の母の実家で

「退職したら洋子は福岡に来る」と期待していた 89 歳の母は、一人暮らしが不安になるたびに SOS を出してきて、昨年 8 月以降は月に３度も福岡往復をしました。福祉公社やコムスンのケアマネージャーさんと母のケアプランを打ち合わせたり母の担当になったヘルパーさん全員に会ったり、母の検査や治療に病院に付き添ったり、日常生活の例えば薬の管理や連絡事項などを視覚的に構造化したりと、母の安定した生活づくりに徹之の支援方法がとても役に立っています。

母の念願だった祖父の 33 回忌も母の故郷で執り行い親孝行もしています。こうして退職後は母の介護とボランティア活動の毎日となっています。

思えば 31 年前、1976 年（昭和 51 年）の１月８日、幸保健所日吉分室の「幸地域訓練会」に、３ヶ月の赤ん坊の政嗣をおんぶして超多動の徹之の手を引いて出かけたのが障害児の母親としてのスタートでした。

あれから丸 30 年。30 年前の障害者福祉は施設福祉で、障害者は「隔離保護収容」されていました。障害を持つ人は弱者（恵まれない人）で、障害＝不幸、福祉は救済事業のようなものでした。実際、「地域で生きる」には療育も教育も医療も不備で、家族が見るというのが大前提で、母親たちが日常の育児に疲れ果て子殺しや心中をするという痛ましい事件もお

きていて「施設づくり」はマスコミもこぞって運動していたようです。施設は家族支援の意味もあったようでした。

当時私は、「障害があれば治すために特別な場で訓練し、治らなければ特別な場（収容施設）で暮らす」という考えに少しも疑問を持っていませんでした。しかし、障害があるわが子を育てながら初めて「何かおかしい」と感じたのです。「なぜ家族や地域と切り離されて暮らさなければならないのか？」と・・・。

30 年前にはまだ目新しい「ノーマライゼーション」の思想を知った時、「世の中がこのような社会になることが徹之にとって一番幸せになる道ではないか？」と思いました。そして「障害を持っていてもあたりまえに地域の中で普通の暮らしをさせたい」と、親として切実に願いました。よく言われるように「障害があること自体が不幸なのでなく、障害ゆえに生きる場が狭まれているから不幸」と思えたのです。それゆえ、同年齢の子（人）が経験することは徹之にも経験できるよう「環境を整えよう」と考えました。そうして地域に生きる大切さを知り 30 年間日々実践しながらそのすばらしさを感じることができています。

当時、施設づくりが親の運動の主流で「地域に生きる」ことをモットーに運動したいと思っても前例がなく、先が見えなくて不安だらけ。仲間たちも「共に生きる」と言っても子供の障害や程度もさまざまで思い描く子供の将来像も同じではなく、親の人生観や価値観もいろいろで「ひまわり父母の会」そして「あおぞら共生会」の運動は、試行錯誤・紆余曲折の日々でした。（法人という事業体となった今、さらに運動の難しさを感じています）

ただ国が、平成 12 年に社会福祉基礎構造改革、15 年に支援費制度、そして今回の障害者自立支援法と、「施設から地域へ」の流れをすすめ、「自分らしく自立した生活をおくれる社会の実現を目指す」という崇高な理念になり、まさに「地域に生きる（ノーマライゼーション）」が権利となったのです。（ただ、理念と現実のギャップはひどいものですが・・・）。

特に、多くの問題が指摘された混乱の中で、18 年４月より「障害者自立支援法」がスタートしましたが、新事業体形の移行等々、矢継ぎ早の改革で弱小法人の「あおぞら共生会」はその対応に追われて人件費不足でつぶれそうです。障害者全般をめぐる動きとその対応は、法人の会報「あおぞら」（前号もあわせて）をお読みくださいませ。

徹之の絵　本の表紙やカット

一方、17 年 4 月から施行された「発達障害者支援法」に関しては、理念啓発法であるためか環境激変の「自立支援法」と比べて環境は何も変わらず、今年こそは新たなサービスの展開を運動したいと思っております。その一助になればと「ＮＨＫハートフォーラム（自閉症等発達障害の理解と支援を願って）」を 19 年度に開催する予定です。皆様のご協力お願いいたします。

自閉症等、目に見えない障害の発達障害は本人の能力や努力以上に周りの方々の影響が大きいようですから、市民の皆様に理解して支援していただくよう企画しました。また、わが子の「意味がわからない行動」で悩んでいる親御さんたちが共に学びあって子供の幸せな未

来のため一緒に楽しく運動していけたらと思っております。ぜひご参加ください。

さて、昨年 12 月 13 日に国連は「障害者権利条約」を採択しました。「私たちぬきに私達のことを決めないで」という障害者本人の声が世界を変えました。

今年はこの条約の国内批准に向けての取り組みがなされることでしょう。また、「新バリアフリー法」（建物のバリアフリーの「ハートビル法」と公共交通機関のバリアフリーの「交通バリアフリー法」等が統合したもの）も昨年 12 月 20 日に施行されました。また画期的なことに、千葉県で野沢さんたちの粘り強い運動が実って、「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が制定されました。

「どんな重い障害があっても住み慣れた町で、その人らしく心豊かに暮らし、学び、働くことができる」このような社会を「障害者権利条約」も「千葉県条例」も目指しています。

障害者の権利擁護のために日本でも正式に「差別禁止法」ができるといいですね。

この 30 年間、次々と障害者福祉に関する法律や制度が出来上がり「地域に生きる」をモットーの私たちにとって法律の「理念」は追い風になりました。でも理念に反して現実の厳しさはつらいものがありますが、でもいかなる時代であっても徹之初め障害がある人々が自分の住んでいる地域で笑顔でその人らしい生き方ができますよう、本人の思いに寄り添って日々地域に密着した運動していきたいと思っています。

近況報告をします。カイパパさんが、10 月 24 日のブログに下記のような一文を書かれていました。（カイパパさんが若いお父さん方に講演するにあたっての思いを書かれた一文）

いろいろな苦労がたくさんあった・・・

・・・でも、そんな苦労話がお父さんたちの聞きたいことだろうか？

当時こんがらがっていた自分は、何を知りたかったかな？
思い起こしてみる。
自分は「明るい未来」の話が知りたかったな。
具体的にわが子がどう成長していくのか知りたかった。
周囲が、社会がどう受け入れてくれるのか、この子の居場所があるのだろうか？
それが知りたかった。
希望という「ウソ」の絵空事じゃなく、専門家のする他人事じゃなく。
私は、明石洋子さんのお話を聞いたときが、一番衝撃的にうれしかった。・・・

カイパパさんのこの感想。若い親御さんたちからこのように私の生き方を認めて支持していただけることが私に更なるエネルギーを与えてくれます。

自立支援法の目指すところの「地域に中であたりまえに働き暮らす」に関しては知的障害を持つ自閉症の徹之の前にまだまだ壁が立ちはだかっています。特に心（意識）のバリアーは強固なものがあります。でもひるまず、めげずに、こつこつと地道に実践していきましょう。徹之が「自己選択・自己決定」して開いた道は、「前例がないなら前例になろう」とやっと通した道です。本当に小さな雑草だらけの道ですが同じ思いを持つ若い方々が後に続いて踏み固めて、さらにその道を広い道に整えて誰でも歩くことできるバリアフリーの道になる

ことを期待しています。一緒にがんばりましょう。

カイパパさんたち名古屋のお父さん方の運動を見習って、川崎でもお父さん方の出番を作りたいと、昨年 11 月 12 日に父親会（第１回）を立ち上げ、新年会かねて第２回を、１月８日に行いました。まだ２回で、各々10 名ちょっとの父親の集まりですが、どのお父さんもわが子の将来を真に案じて「父親としてできることは？」という熱意があり、今後の活発な活動を予感させてくれます。今のところ父親会相談役となった徹之の父（明石邦彦）から「父親の役割や自立支援法と川崎の現状」等を、私から「発達障害者支援法と川崎の現状」などをお話しており親睦とともに研修の場になっています。

第１回　父　親　会

まだ設置できていない「川崎市発達障害者支援センター」を当事者のニーズに添ったものにするため、早速カイパパさんの「ぼくらの発達障害者支援法」の読書会を始めることにしました。

３回目からお父さんたち持ち回りで幹事になって企画進行もお願いしました。今後、先駆的な活動をされている各地の父親の会との交流もしてお互いに情報交換していただきたいと願っていますのでご協力くださいね。

親の会の各活動を、昨年 11 月に開設した会のホームページに載せましたのでお時間があるときに覗いてください。ホームページのアドレスは下記のとおりです。

http://kusabue.web.infoseek.co.jp/index.html です。

私は、昨年４月より川崎市自閉症児者親の会の会長となりましたので、父親会や高機能自閉症部会（名前募集中）の設立や若い親の集まり（バンビの会）の充実、会員の研修のための講演会開催等々、「川崎が面白い」となるような楽しい会活動をしたいと思っています。

また日本自閉症協会の出版部の企画編集委員になり、情報の収集と発信にもかかわることになりました。特に、「いとしご」や「かがやき」の機関誌に載せる記事については、全国各地の講演で知り合った地域の中で先駆的な活動をしている若い親御さんたちにぜひとも執筆していただくよう企画会議で提案しています。ご協力お願いしますね。

また私自身も、「いとしご」102 号（１月発行）の「支部便り」に、川崎市支部の活動の様子を、「かがやき」３号（２月発行）の「子育ての工夫」にピエロテッシーのエピソードを書いています。

能登半島ドライブ

川崎市支部の会報「くさぶえ」には、84 号（18 年 6 月発行）に総会での様子と会の今後の方向性を、85号（18 年 11 月発行）に自閉症協会の組織改革と AC 機構と川崎市民への「自閉症」の理解と支援の啓発を、会長名で書きました。

「自閉症になったのではない、自閉症に生まれてきただけ」というコピーの「自閉症キャンペーン」が現在新聞紙上で行われていますが、次年度のデザインのコンクールも始まったようで、今回もＡＣ機構のコンクールに広告代理店３社から「徹之をモデルにデザインを作るので了承を」との話がありました。採用されるかどうかは未知数ですが・・。啓発活動は大切と思っておりますので協力は惜しみません。

支部の会報「くさぶえ」・協会の機関誌「いとしご」でも紹介しました「ジェイミーのコンサート」は昨年 10 月 10 日に、「ミューザ川崎」市民交流室で第４回目が行われました。事務局の竹内啓介先生（幸区で歯科医開業）から誘われて私は第２回から参加しております。

「第４回ジェイミーのコンサート」は、世界的に有名な盲目のバイオリニスト川畠成道氏が、ピアニストの小川典子さん伴奏で演奏され、心揺さぶられるとてもすばらしいコンサートでした。この会は、小川典子さんがジェイミー君（イギリスの現在 15 歳になる自閉症児）の家に２年間下宿された時にお母様の大変さを痛感し、日本の母親たちに「音楽を楽しんで心身ともに安らいでいただきたい」とスタートしたコンサートです。

いつも素敵な演奏家を招かれるので、すぐに市民の方でいっぱいになり、「親の参加が少ない」と竹内先生が嘆かれていらっしゃいましたので、親の会の会報に載せて参加を呼びかけています。竹内先生、小川さん、小澤さん、みな川崎の住人でスタッフも医師、歯科医師、パイロット、日本画家、各業界の会社員など、異文化交流の場にもなっています。当日は小川さんの挨拶の後、司会者の小澤幹雄氏（指揮者の小澤征爾氏の弟さん）の紹介を受け、演奏直前の 10 分間「ジェイミー君だけでなく川崎の自閉症児者への理解と支援を」と会場の皆様にお話しました。３回目のコンサートから「明石通信」「あおぞら」と私のプロフィールがプログラムと一緒に配布されています。

小川典子さんと阿瀬川 Dr ご夫妻

演奏会、またその後の茶話会、終了後のスタッフミーティング（懇親会）でも、自閉症の説明をする機会をいただき理解者支援者のネットワークを広げて行っております。

自閉症児者はじめ、障害者の自立は本人の努力よりむしろ環境整備。市民の方々の正しい理解と適切な支援（温かいまなざし）にかかっているように思います。

バザーや作品展、講演会や各種イベント等で、市民の方々と接する機会を多くし、支援の輪を広げていきたいと考え実践しております。

左の写真は、11 月６日～11 月 17 日に多摩区役所 1F アストリウム（市民交流広場）及び高津区役所市民ホールで「自閉症児者作品展」を開催した時の徹之の作品です。

前述しましたが昨年７月から AC 公共広告機構が新聞紙上で「自閉症の理解と支援」のキャンペーンをしていますので、11 月に出来上がったばかりのキャンペーンポスターと、10 月 10 日からスタートした「僕が歩く道」の番組宣伝ポスター（関西テレビに伺ったとき頂きました）やＮＨＫ「お仕事がんばります」の徹之のポスターも貼って「隣に住んでもあたりまえ、隣で働いてもあたりまえ」と市民の皆様が思っていただけるように企画しました。

徹之のドキュメント番組を作られた内多勝康さん（現 NHK 生活ほっとモーニングのキャスター）もこの番組への思いは強いようで、高校の同窓会に**「テレビは人に役立ちます」**

というタイトルで次のように書かれています。

「・・・テレビの最大の武器は、実にたくさんの人に見ていただけることです。たとえ視聴率が１％でも、単純計算で１２０万人の人にメッセージを伝えることができるわけです。これはすごいことですね。ですから、その波紋も思いがけず大きくなることがあります。

７年前自閉症の男性を取材したときのこと（アナウンサーでも取材するのですよ）。

その人が川崎市で立派に公務員として働いている姿を放送したところ、「一体どうすれば、あんなに笑顔で暮らせるのか？」など、自閉症の子供を持つ親たちから驚きの反響が殺到しました。

将来を悲観して日々暮らしていた家族にとって、同じような境遇でありながら、地域の中で自立へのハードルをクリアーしたその男性の姿は、私が予想していた以上に、インパクトの強いものだったのです。

先日、その男性について書かれた本の出版記念パーティーに出席してきました。会場には全国各地から自閉症の人やその家族など１３０人を超える人が駆けつけ、「おかげで勇気づけられた」「私も子供の自立のためにがんばっている」と感謝の気持ちを涙ながらに伝えていました。そしてその会場で、私は、その男性のお母さんから、放送にかかわるものとして最高の言葉を頂きました。

生活ほっとモーニング生出演

「内多さんがテレビで放送してくれなかったら、こんなに感動の輪が広がることはなかった」・・そんな時、私は心の中で、密やかにガッツポーズです。　最近はNHKも前途多難ですが、そんなささやかな自己満足のため今日もファイト！　（NHKアナウンサー）」

なんとうれしいメッセージでしょう。内多さんは、長いアナウンサー生活の間にすばらしい出会いは数多く、エピソードも山のようにおありでしょうが、福祉関係の機関誌などでない母校の同窓会誌に徹之のことを書かれたのです。この冊子を同じ高校の同窓の読者が「うれしい！」と感動して送ってくれました。二重にうれしくてたまりませんでした。

１９年度、発達障害者の理解と支援の啓発の「NHK ハートフォーラム」を開催したいと思っていますが、講師の一人として内多さんをお願いしたいと考えていますので、よろしくお願いします。

ＮＨＫの朝の顔ですものね。きっと市民の方々がいっぱい来てくださいますね。

講　演　会　風　景

最近は近隣の、若いお母さんがたから依頼された講演はすべて引き受けています。「パワーポイントで講演します」と言うと「パワーポイント？？」・・・で、“それでは機材の用意も無理”となって機材持参で主人（操作係）も徹之も同行することになり家族総出の講演会参加になっております。そのエピソードを、横浜のお母さんのお手紙から紹介いたします。

大変すばらしい講演をしていただきありがとうございました。初めての大きな講演会をするということで、大変不慣れな私を相手に、メールでの打ち合わせに不安を覚えられたことでしょう。おかげでご主人様も来てくださるという大変幸運をもたらす結果となりました。

私どもの不慣れな進行でも、明石さんのお話は大変感動的で、心に残る講演会になり、大成功で終えることができました。明石さんの言葉一つ１つに、重みと説得力があって、子供の幸せとは何なのか、どういう将来を見据えていけばいいか改めて考えることができました。

・・・明石さんが《育てるということは、周りが扱いやすい人にするのでなく、その人らしい主体的な生き方ができるように》とおっしゃった言葉にはっとしてしまいました。

今情報過多で、いろいろ療育方法があってそれに振り回されてしまっていますが、明石さんがしたように、子供から学ぶセンサーや子供にあわせた支援方法を考える感性を磨くことが大事ですね。今、他人（専門家）任せにしすぎているのではないかと思いました。

明石さんのように、子供の目線に立ち、子供を知ること。まずは信頼と安心を子供が親から得ることによって、初めて人からいろいろ学べるのだとわかりました。また、徹之さんが散歩中に（本人のスピーチが終わって、《街探検に行きます》と外出）、おでこをぶつけたようで早々と帰ってくるというハプニングがありました（約束の時間前に帰ってきた）。

私どもは、思いがけない事態のおかげで、日常の明石家のほのぼのとした温かい生活を垣間見ることができました。参加者からも『明石さんはバリバリのお母さんという印象が強かったけれど、柔らかい語りで、徹之さんに対するかかわりも優しく、印象が違ったわ』という声も聞かれました。本当に痛がっていた徹之さんには申し訳ないけれど、ありのままの明石家の姿と愛らしい徹之さんに、思わず笑ってしまい、なんだか心がホッコリとしてしまいました。兄弟児のお話では、弟の政嗣さんの言葉にホロリときて、涙を流してしまいました。

たくさんお言葉の花束を頂き、大事なのは何なのか、たくさんのヒントを頂きました。

友人たちからも『今までいろんな講演会に行ったが、今までのどの講演会より、一番よかった』といってもらい、本当に反響が大きく、やってよかったとほっとしています。

何より、希望の星の徹之さんを間近に見ることができ、うれしかったです。涙と笑いをたくさんの感動をありがとうございました。力をあわせてがんばっていきます！

と、感謝のお手紙をいただきました。嬉しいですね。

静岡では、「おひさまネット」という幼児のお母さん数人で講演会を企画運営され、それでも会場 80 人定員に立ち見が出るほどの参加者で、大盛況で静岡新聞にも静岡市女性会館の機関紙にも写真入で講演会の様子が掲載されました。主催者は大感激。送られてきた参加者のアンケートも図表に整理され、感想内容もＡ４で数枚びっしり箇条書きに書かれていて参加者の思いが読み取れました。

岐阜のお寺の前で

輪　島　の　朝　市

『満足』ばかりの中に１人『やや不満」がありましたが、中身を見ると、「とてもいい講演だった、もっと聞きたい、時間が足りない！」と書かれており、内容は全員満足いくものであったとほっとしました。

また自閉症協会盛岡の若い親御さんからからは、写真と共にお一人毎の丁寧な感想のお手紙が寄せられました。岐阜も若い親御さん主催と養護学校と２ヶ所の講演会。素敵なホテルを用意していただき、講演会後の懇談会やバラ園などの観光案内もしていただいて本当にお世話になりました。

釧路・徳島・鹿児島・福岡・愛知の皆様方にもお世話になりました。このように若いお父さんお母さん達からのお礼や感想のお手紙を頂くと私も若返って本当に元気が出ます。

徹之も同年齢くらいの親たちから夢と尊敬のまなざしで迎えられ、自分が受け入れられていることが実感でき自己実現の場となっているようで笑顔いっぱい、生き生きとしています。

親御さんたちだけでなく、養護学校からも、・・・「本日はお忙しい中また遠方より本校においでいただきありがとうございました。私は本を３冊読ませていただき NHK の放送も見せていただいたにもかかわらず、じかに聞くお話はとても興味深く心に訴えるもので、たくさん得るところがありました。終了して私と廊下ですれ違うたびに、『いいお話でした』『よかったよ』『明石さんはすごい人ね』『保護者のみなさんにも聞いてもらいたいね』『本が読みたくなりました』等々、同僚から話しかけられ、担当として嬉しかったです。明石さんに感謝！感謝！です」・・・とお礼のメールも頂いています。

右の新聞記事は、８月５日～７日、鹿児島県医師会館で開催された「全国生活支援ネットワーク九州ブロック大会＆自閉症セミナー（鹿児島フォーラム）」の南日本新聞記事です。フォーラムを取材された川口智子記者さんのご好意で、新聞の印刷風景を輪転機の横にまで行って見学させていただきました。刷り上ったインクのにおいのする夕刊を頂いてご機嫌の徹之でした。その記者さんが書かれた記事です。

また、11 月 26 日に下関で開催された金原小児科金原洋治先生会長の「小児発達研修会」の講演会会場には「うちの子かわいい親ばか日記」（ぶどう社）の著者あべひろみさんが一家４人で、また萩から切り絵画家の上田豊治さん（徹之の大切な友人）がお母様の幸子さまと、また養護学校の先生になられた佐賀時代の「学生ボランティアサークル有明会」の 10 代目会長さんたちが聞きにこられ感激しました。あべさんの漫画に私が登場しているのですよ。若いお母さんに影響を与えることができ、うれしいですね。

漫画の1カット

「ありのままの子育て」の本

↑私とおばあさま

先月 12 月２日には、「福岡市発達障害者支援センター」（12 月４日オープン）の開設記念講演会に徹之と講演しました。毎日新聞と西日本新聞（新聞記事掲載）に載りました。

天神の福岡ガーデンパレスにて「発達障害に理解を」という話をしました。福祉関係者や市民が 300 人以上こられました。私の郷里の福岡で、徹之が町のどこでも「自閉症で OK」と認めてくださるようこれからも応援したいと思っています。

「発達障害に理解を」
記念講演会に300人

９月末で、全国 50 ヶ所の「発達障害者支援センター」が設立されていますので 12 月に開設した福岡なども入れると 19 年度中に各都道府県政令都市６０ヶ所の国の計画に、未達成なのは川崎市くらいになるのでしょうか？　私は講演会では「最後になる（？）川崎は全国の一番いい例を参考にできるから、最高のセンターが開設されるでしょう」とお話しております。全国のセンターの設立記念や１周年記念の講演を頼まれて行っておりますので先駆的な運営をしている所とは情報交換していきたいと思っております。

さて同じく 12 月は父のお墓があります（父の生まれ故郷の）朝倉市の社会福祉協議会から講演を頼まれました。12 月 16 日、朝倉地域生涯学習センター文化ホールで講演をしました。「社会参加　なん田（でん）かん田（でん）セミナー」＆「地域福祉セミナー」で、演題は「ありのままに当たり前に生きる地域に」です。なんと会場にはいとこたち（私より年長）が来てくださって、感激です。カラーポスターは朝倉の空を背景に作成されたとか・・・永久保存版にします。

朝倉市講演会ポスター

親御さんたちから「自閉症の理解が乏しい地域で、市民対象のこういう講演会は初めて」と喜んでいただき、社協の職員も「自閉症のことを誤解していた。勉強になった」と「また来てください」と言われました。

転勤が多かった公務員の父が、晩年「３連水車」の貼り絵をする等、子供時代を過ごした故郷をしのんでいましたが、今回水車など見学させていただきとても懐かしく思いました。

記念に残る朝倉市の講演会でした。

遠方の講演会は、観光までご用意いただくことが多く、能登の「穴水中学校」の全校生徒対象の講演会後、PTA 役員の方々が輪島の朝市はじめ半島最北端の灯台など能登半島一周ドライブしてくださり、徹之は新しい地名を覚えていました。

日本海倶楽部前にて

また、私が希望した社会福祉法人運営のユニークなレストラン「日本海倶楽部」に連れて行っていただきました。入所施設で作っている地ビールを堪能した徹之は大喜びでした。本当に、徹之のおかげでいろいろな所を訪れる事が出来て、更に「人」という最高の財産まで増えております。感謝！です。

遊びばかりではなく、私も顧問として参加しています「オホーツク LD&ADHD 懇話会」の講演会に竹田契一先生と高山恵子さんがこられましたので、私の釧路の自分の講演会に先立って北見と帯広まで足を伸ばして勉強させていただきました。「発達障害者支援法」の制定で「JDD ネット」が結成されましたのでこれからは「自閉症」と「LD」と「ADHD」の関係者が連携を取り合うことが多くなりますね。今年 11 月にＬＤ学会が横浜であるとのこと、参加したいと思っています。田中康雄先生よろしくお願いします

「LD &ADHD 懇話会」で竹田先生達と

また昨年は、自閉症のドラマ「僕が歩く道」が好評でしたね。「光とともに」のドラマと同様、このドラマにも徹之のエピソードもずいぶんありました。

中央が　ヒョンジン母子

今年は４月からＴＢＳで韓国映画の「マラソン」を日本人向けにしてドラマ化されます。昨年、原作者のヒョンジン母子が河口湖マラソンに韓国の方々とツアーで来日参加された際お台場でお目にかかりました。　韓国放送公社(ＫＢＳ)制作の日曜スペシャル「幸福なレインマン、走って世の中に」を韓国で見られていたそうで徹之をよくご存知で、「有名な明石さんにあって感激！」（通訳さん介して）といわれましたが私こそ「マラソン」の原作者に会えて感激しました。ＴＢＳの山崎制作部長さんも合流され、そのときは「主役を交渉中」とのことでしたが今年４月からのいよいよ放送されるとのこと楽しみにしています。数年前も「君が教えてくれたこと」（ともさかりえ）や「天使が消えた街」(藤井フミヤと堂本光一)の自閉症者が主人公のドラマが続きましたがまた今年も自閉症が身近な話題になって理解者が増えてくれるといいですね。

ドラマは最高の啓発活動になりますもの。４月が楽しみです。

さて、最後に仙台の阿部幸泰先生がご自身のホームページに載せられた私に関する記事を整理してくださいましたので同封します。関心のある方は各アドレスを開いて読んでくださいませ。では本年もどうぞよろしくお願いいたします。ではまた・・・・・

日本海倶楽部で地ビールを堪能し、お土産に買って

・・明石洋子から・・＜　お　願　い　＞

私のパソコンが壊れて皆様のアドレスがわからなくなってしまいました。

下記のアドレスにテストメールを送っていただけませんでしょうか。出来ましたらお名前と所属・住所も書いていただけると助かります。

明石洋子アドレス
brightstone@rainbow.dti.ne.jp

「明石洋子さんバージョン」
（日付後の「＊」印の記事は、他記事の中で、明石さんに触れた記事。）

「雑学」HP　http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/
「雑学ＢＮ（ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ）」ＨＰ　http://cen.web.infoseek.co.jp/magari.html

（※このファイルをメールで添付送信で受信された方は、ＰＣでこのファイルを立ち上げて各記事のアドレスをクリックすれば、アクセス出来ます。
※このファイルを印刷物で見ている方は、以下のファイルは、「雑学ＢＮ」に「新しいウンドウ」でリンクしていますので、「雑学ＢＮ」の「時系列目次一覧」から日付を手がかりにアクセスして下さい。）

「共感してくれる仲間」と「直感」で感じてもらうには　2004.07.11.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/akasityokan.pdf

ある母親とのＨＰでの出会い　2004. 07.21.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/akasimeru.pdf

母親というより、正に教育実践家！　2004.08.29.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/akasihon.pdf

教育活動とは何かという根源の問いかけから　2004.09.28.　＊
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/kyouikukatudou.pdf

親としての環境作りへの実践・行動力　2004.09.29.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/akasibideo.pdf

子どもの観点からの育児体験の提示を　2004.10.19.　＊
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/4komamanga.pdf

子どもが幾つになっても案じる人を、親と呼ぶに相応しい　2005.01.09.　＊
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/oyatoyobunifusawasii.pdf

書籍「お仕事がんばります」を紹介します　2005.04.04.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/akasi-3-syoukai.pdf

書籍「お仕事がんばります」を読んで　2005.04.16.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/akasi-3-bira-aozora.pdf

「地域で共に生活」とは、地域で文化的生活をしてこそ！　2005.04.24.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/bunkanokaori.pdf

「生活スキル、選択肢の工夫」への観点の重要性　2005.08.14.　＊
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/himeji-ryouiku-kangaekata.pdf

何事にも前向きな思考力は、やはり凄い！　2005.08.26.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/akasi-hensin-8-23.pdf

地域社会とは、場所でなく、人との係わり　2005.10.22.　＊
http://cen.web.infoseek.co.jp/tubametuko.pdf

「明石洋子さんの本の完結をお祝いする会」へ出席して　2005.12.11.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/akasi-iwaukai.pdf

とっても素敵なお土産をゲットに感謝！　2005.12.18.
http://cen.web.infoseek.co.jp/omiyage-getuto.pdf

障害児とプライバシー問題　2006.06.16.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/18-kouki/syougai-puraibasi-tusin.pdf

「障害児とプライバシー問題」へのコメント　2006.06.19.　＊
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/18-kouki/6-20-puraibasi-komento.pdf

最良のサポーターとして行動する知恵と勇気を　2006.07.27.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/18-kouki/akasi-iwate.pdf

プロは専門的な知識以前に、「人の心が解る心」を！　2006.08.24.　＊
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/18-kouki/kokoro.pdf

乳児期からの親の支援充実を改めて願う　2007.01.17.　＊
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/19.zenki/nyu-ji-sien.pdf

明石さんの「子どもは子どもの中で育つ」を紹介して　2007.02.06.
http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/19.zenki/akasi-kikoubun-syoukai.pdf

（以上：2007.02.06.　現在）

阿部幸泰先生のHP　「明石洋子さんバージョン」より

母親というより、まさに教育実践家！

当HP（バックナンバーP：2004年 07月21日「ある母親とのHPでの出会い」）で記載したお母さんからいただいた著書２冊（自閉症の息子と共に‥‥①ありのままの子育て、② 自立への子育て;ぶどう社）を読み終えた。

まず感想を一言で言えば、著者に先にメールしたように、やはり「子どもは出会う母親により、その後のQOLが決まる」ということかな。

それにしても著者は、凄い！　母親の育児体験書というより、正に教育実践家！

子どもの行動に意味、心の機微を探り、その行動を尊重して規制することなく、それに対応する工夫･指導、検証までも具体的に詳細に記載されている（もちろん当人は、そうした意識で子育てしたのではないと思うが、それだけに、育児･教育における係わり合い方の本質と思われることだけに、凄い！）例えば、強い拘り行動、超多動行動も、子どもの関心、興味の対象故と捕らえ、工夫･指導の糸口に置き換えての実践。

また、著者は障害者が地域で生きていくために、地域の意識を変えるために、自らの行動で開拓している。例えば、障害児親子に限定せずに、地域の方々を巻き込んでのいろんなサークル、イベント等の企画･実践、また、積極的な「ご近所デビュー」や我が家を地域の子どもたちへの開放、等々。

この著者の30年近い時系列の実践の前では、いかなる教育学者、教育者といえども、また自称福祉のプロという人も、圧倒されるであろう。そして、プロという前提が、子どもの日常活動の中では、色あせるものである事を気づくと思う。

「教育とは、その子どもの生きていること（生命活動拡大）に係わり合い、サポートする作業であり、それ故に日常生活の場面で具体的に指導することが、最も効果的で、かつ、その子どものエネルギーとして身につけ易い。また、障害という概念は、往々にして周りの作り出している要因が多い。」と考える私としては、著者の30年近い実践記録は、自説の裏づけとなるものだけに、読ませていただいて勇気をいただいた。

また、私は「コミュニケーション論」がライフワークと自認しているが、それも係わりあう中でも係わり手の姿勢という側面から検討しているだけに、著者（教育者）の工夫、実践は見事！という感嘆の言葉しか浮かばない。

私としては、障害児の親よりも、教育、福祉関係者に購読を勧めたい本である。

２００４年８月２９日記